

## 10. 資料の整理に関する問題 (2014 年度)

### 【問 1】

下の表は、正樹さんが通う A 中学校の 1 年生 60 人全員のある日の通学時間を、度数分布表にまとめたものです。

次の問いに答えなさい。

(北海道 2014 年度)

階級(分)	度数(人)
以上 未満 0 ~ 5	2
5 ~ 10	11
10 ~ 15	18
15 ~ 20	7
20 ~ 25	9
25 ~ 30	8
30 ~ 35	5
計	60

問1 度数がもっとも多い階級の相対度数を求めなさい。

問2 度数分布表から、通学時間の平均値を求めると 17 分となります。通学時間が 16 分の正樹さんは、自分の通学時間を 60 人の通学時間の平均値と比べて、次のように考えました。

(正樹さんの考え)

自分の通学時間は平均値より短いので、1 年生 60 人の中で自分より通学時間が短い生徒は、60 人の半数である 30 人より少ない。

この考えが正しいとは言えない理由を、度数分布表をもとに書きなさい。

ただし、解答は「……から。」という形で書くこと。

解答欄

問1	
問2	から。

解答

問1 0.3

問2例

度数分布表では, 15 分未満の通学時間の生徒が 31 人いるから。

解説

問1

度数のもっとも多い階級は 10 分以上 15 分未満でその度数は 18 人だから相対度数は  $\frac{18}{60} = 0.3$

問2

度数分布表から通学時間が 15 分未満の人は 31 人おり

正樹さんの 16 分より短い生徒は 31 人以上いると考えられるから。

【問 2】

右の表は、ある中学校の生徒 30 人がゲームを行い、それぞれの得点について、度数分布表にまとめたものである。次の(1)、(2)に答えなさい。

(青森県 2014 年度 前期)

階級(点)	度数(人)
以上 未満	
80 ~ 90	2
90 ~ 100	5
100 ~ 110	6
110 ~ 120	4
120 ~ 130	3
130 ~ 140	4
140 ~ 150	3
150 ~ 160	2
160 ~ 170	1
計	30

(1) 中央値はどの階級に入っているか、求めなさい。

(2) 得点が 130 点以上 140 点未満の階級の相対度数を、小数第 3 位を四捨五入して求めなさい。

解答欄

(1)	点以上 点未満
(2)	

解答

(1) 110 点以上 120 点未満

(2) 0.13

解説

(1)

中央値は得点順に並べたとき 15 番目と 16 番目の生徒の入っている階級だから 110 点以上 120 点未満の階級

(2)

相対度数は  $4 \div 30 = 0.133\cdots$ より

小数第 3 位を四捨五入して 0.13

【問3】

下の表は、ある中学校のA組、B組の生徒が3か月間に読んだ本の冊数を調べ、その結果をクラスごとにまとめたものである。これらについて述べた文として適切なものを、次のア～エの中から1つ選び、その記号を書きなさい。

(青森県 2014年度 後期)

A組

冊数(冊)	0	1	2	3	4	5	計
人数(人)	2	5	9	12	4	3	35

B組

冊数(冊)	0	1	2	3	4	5	計
人数(人)	6	7	4	3	9	6	35

- ア A組とB組の冊数の最頻値は同じである。
- イ 3冊以上読んだ人数が多いのはB組である。
- ウ A組とB組の冊数の平均値は同じである。
- エ A組よりもB組の方が冊数の中央値が大きい。

解答欄

解答

ウ

解説

ア

最頻値はA組が3冊、B組が4冊で違う。

イ

3冊以上読んだ人数はA組が19人、B組が18人でA組の方が多い。

ウ

平均値は人数が同じなので冊数の合計で比較する。

A組が  $0+5+18+36+16+15=90$  冊、B組が  $0+7+8+9+36+30=90$  冊より

合計も人数も等しいので平均も等しい。

エ

中央値はA組もB組も3冊で等しい。

よって選択肢はウ

【問4】

いちろうさんのクラスの人数は 21 人です。クラスの 50 m 走の記録を調べたところ、いちろうさんの記録は 8.4 秒で、クラスの平均値は 8.3 秒でした。このことから、いちろうさんは自分の記録について次のように予想しました。

[いちろうさんの予想]

わたしの記録は、平均より遅いので、速い方から数えたら 10 番以内に入っていないと思います。

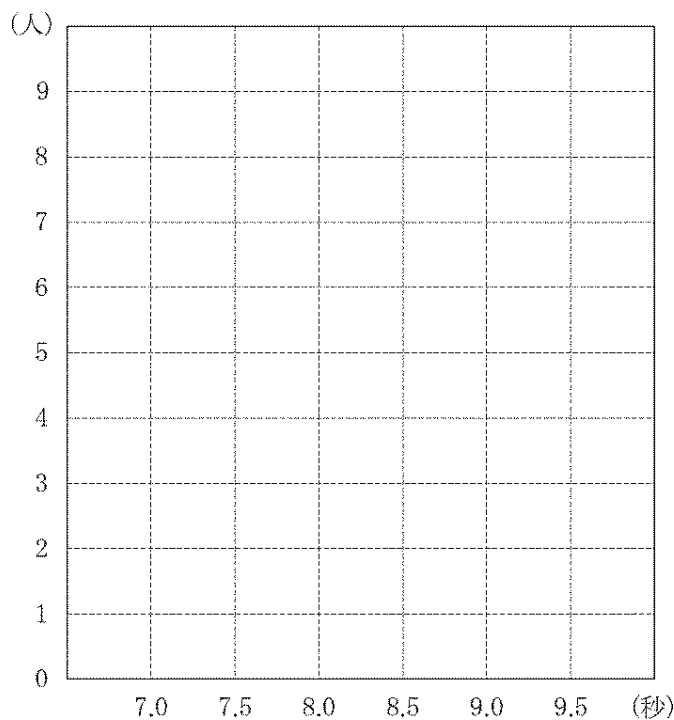
階級(秒)	度数(人)
以上 未満	
7.0 ~ 7.5	1
7.5 ~ 8.0	3
8.0 ~ 8.5	6
8.5 ~ 9.0	9
9.0 ~ 9.5	2
計	21

右の表は、いちろうさんのクラスの 50 m 走の記録を度数分布表に整理したものです。いちろうさんは、上の予想をしたとき、この分布のようすを知りませんでした。

このとき、次の問1、問2に答えなさい。

(岩手県 2014 年度)

問1 上の度数分布表をヒストグラムに表しなさい。

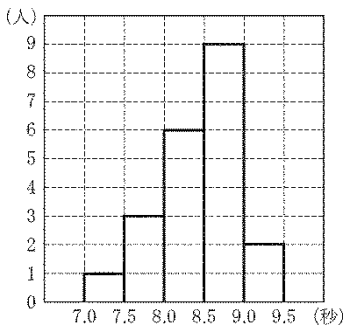


問2 上の[いちろうさんの予想]はあっていますか、あっていませんか。あてはまる方を ○ で囲み、その理由を書きなさい。

解答欄

問1				
問2	理由	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">あっている</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">あっていない</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%; margin-top: 5px;"></div>	あっている	あっていない
あっている	あっていない			

解答  
問1



問2

あっていない

理由例

8.5秒未満の人数を数えると10人だから

解説

問1

度数分布表をもとに柱状にグラフをかく。

問2

早い方から10番目の生徒は8.0秒以上8.5秒未満の階級にいる。いちろうさんの8.4秒もその階級なので10番以内には入っている。よって予想はあっていない。

【問 5】

右の表は、ある中学校で生徒の通学にかかる時間を調べ、相対度数を求めて表に整理したものです。通学にかかる時間が 25 分以上となる生徒は、全体の何%ですか。

(宮城県 2014 年度 前期)

階級(分)		相対度数
以上	未満	
0 ~	5	0.01
5 ~	10	0.05
10 ~	15	0.16
15 ~	20	0.32
20 ~	25	0.22
25 ~	30	0.12
30 ~	35	0.09
35 ~	40	0.03
計		1.00

解答欄

%
---

解答

24%

解説

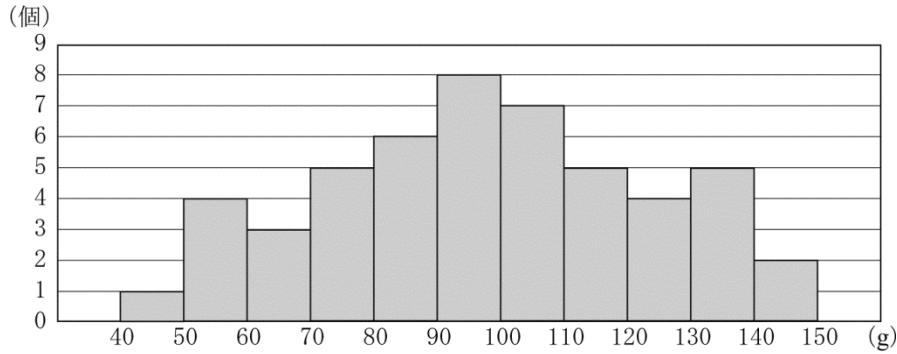
通学時間が 25 分以上となる生徒の数の相対度数は  $0.12 + 0.09 + 0.03 = 0.24$  よりその割合は 24%

【問 6】

収穫した 1000 個のジャガイモから 50 個のジャガイモを無作為に選び 1 つ 1 つの重さを量りました。下の図はジャガイモの重さを、階級の幅を 10 g として整理し、ヒストグラムに表したものです。たとえば、40 g 以上 50 g 未満の階級の度数は 1 個となります。

あとの(1), (2)の問いに答えなさい。

(宮城県 2014 年度 後期)



(1) 最頻値 (モード) を求めなさい。

(2) 収穫した 1000 個のジャガイモの中には、重さが 90 g 以上 120 g 未満であるジャガイモは、およそ何個含まれていると考えられますか。

解答欄

(1)	g
(2)	およそ 個

解答

(1) 95g

(2) およそ 400 個

解説

(1)

最も度数の大きい階級は 90 g 以上 100 g 未満なので最頻値は 95 g

(2)

50 個のジャガイモの中に 90 g 以上 120 g 未満のジャガイモは  $8+7+5=20$ (個)含まれていた

その割合は  $\frac{20}{50} = \frac{2}{5}$  より

1000 個の中に 90 g 以上 120 g 未満のジャガイモは  $1000 \times \frac{2}{5} = 400$  よりおよそ 400 個と考えられる。



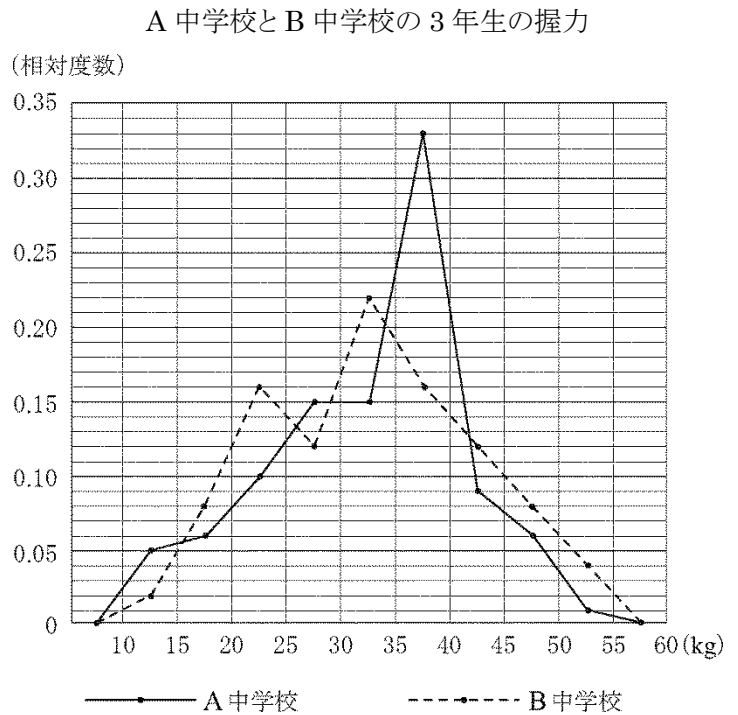
【問 7】

A 中学校と B 中学校の 3 年生の人数は、それぞれ 200 人と 50 人である。右の図は、A 中学校と B 中学校の 3 年生全員の握力を測定した結果をもとに、相対度数を求め、それをグラフに表したものである。

なお、図において、たとえば、10～15 の階級では、握力が 10 kg 以上 15 kg 未満の階級の相対度数が、A 中学校は 0.05、B 中学校は 0.02 であることを表している。

(秋田県 2014 年度)

- (1) A 中学校の 3 年生の握力について、人数が最も多い階級の階級値を求めなさい。



- (2) B 中学校の 3 年生の太郎さんは、「握力が 30～35 の階級の相対度数は、B 中学校が A 中学校より大きいので、その階級の人数も B 中学校が多い」と考えた。同級生の花子さんは、この考えは間違いであることに気づき、太郎さんに正しい考えを説明した。その説明の内容を言葉と式を用いて書きなさい。

解答欄

(1)	kg
(2)	

解答

(1) 37.5kg

(2) 例

握力が 30～35 の階級の相対度数は A 中学校が 0.15、B 中学校が 0.22 でありその階級の人数を求めると A 中学校が  $200 \times 0.15 = 30$  人、B 中学校が  $50 \times 0.22 = 11$  人である。したがってその階級の人数は A 中学校が多い。

解説

(1)

A 中学校で人数が最も多い階級は相対度数の最も高い階級だから 35 kg 以上 40 kg 未満。よってその階級値は 37.5 kg

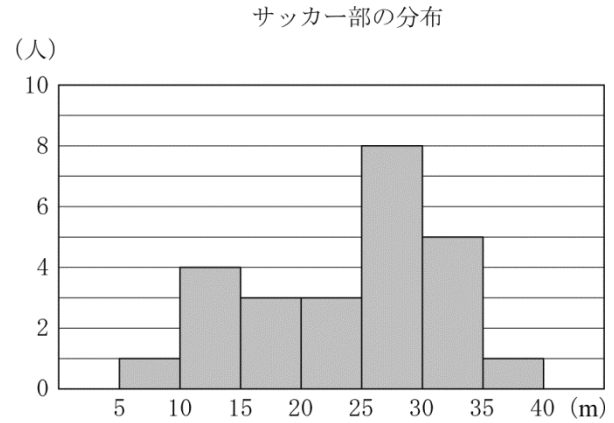
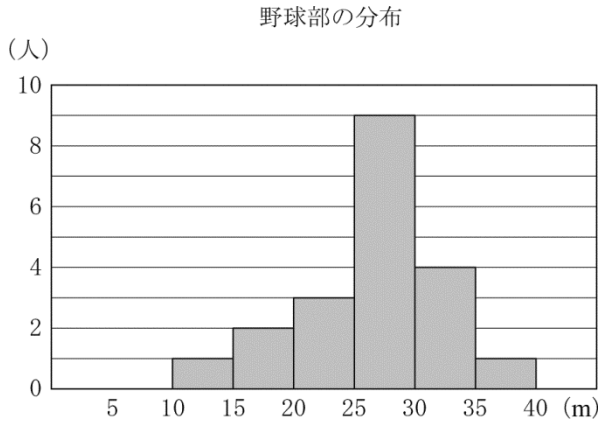
(2)

30 kg 以上 35 kg 未満の相対度数は A 中学校が 0.15、B 中学校が 0.22 である。その階級の人数は A 中学校が  $200 \times 0.15 = 30$  人、B 中学校が  $50 \times 0.22 = 11$  人よりこの階級では、A 中学校の方が人数が多い。

【問 8】

下の図は、ある中学校の野球部員 20 人とサッカー部員 25 人のハンドボール投げの記録を、それぞれヒストグラムに表したものである。これらのヒストグラムから、たとえば、どちらの部も、記録が 35 m 以上 40 m 未満の階級に入る部員的人数が 1 人であることがわかる。あとの問いに答えなさい。

(山形県 2014 年度)



- (1) これらのヒストグラムの階級の幅を答えなさい。
- (2) 野球部とサッカー部で、記録が 30 m 以上の部員の割合を比べたとき、その割合が大きい部における、記録が 30 m 以上の部員の相対度数を求めなさい。
- (3) 野球部の卓也さんとサッカー部の圭太さんは、記録がともに 24 m であった。次は、卓也さんと圭太さんの会話の場面である。ここで、卓也さんの述べた、下線部の判断は誤っている。その理由を、ヒストグラムを使って説明しなさい。

<会話の場面>

圭太: 野球部員とサッカー部員の記録を、それぞれ上から大きい順に並べたとき、ぼくたちの記録はどのあたりかな。サッカー部員の平均値は 23.9 m だけど。

卓也: 圭太さんの記録はサッカー部員の平均値よりは大きいから、圭太さんの記録はサッカー部員の中で、まん中より上だよ。

解答欄

(1)	m
(2)	
(3)	[理由]

解答

(1) 5m

(2) 0.25

(3)

[理由]例

サッカー部員 25 人の中で

まん中は 13 番目であり

その記録はヒストグラムより 25 m 以上である。

圭太さんの記録は 24 m で

25 m より小さいので

サッカー部員の中でまん中より上とはいえない。

解説

(1)

横軸の目盛りは 5 m 刻みなので階級の幅は 5m

(2)

記録が 30 m 以上の相対度数は

野球部が  $5 \div 20 = 0.25$

サッカー部が  $6 \div 25 = 0.24$

よって大きいのは野球部の 0.25

(3)

サッカー部の 25 人のうち

真ん中の 13 番目の記録は

ヒストグラムより 25 m 以上 30 m 未満の階級にあるので

圭太さんの 24 m の記録は真ん中より下である。

【問 9】

右の表は、ある学級の生徒 29 人の通学時間を度数分布表に整理したものである。

この生徒 29 人の通学時間の最頻値を求めなさい。

(福島県 2014 年度)

通学時間(分)	度数(人)
以上 未満	
0 ~ 10	4
10 ~ 20	9
20 ~ 30	8
30 ~ 40	6
40 ~ 50	2
計	29

解答欄

分
---

解答

15 分

解説

最頻値が入っている階級は 10 分以上 20 分未満なので最頻値は 15 分

【問 10】

下の資料は、A さんの家に設置された太陽光発電システムの、連続した 10 日間の発電量を記録したものである。このとき、発電量の平均値と中央値 (メジアン) を求めなさい。

(茨城県 2014 年度)

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目
発電量 (kWh)	25	24	25	26	25	6	22	24	26	22

解答欄

平均値	kWh, 中央値	kWh
-----	----------	-----

解答

平均値 22.5 kWh, 中央値 24.5 kWh

解説

平均値は $(25+24+25+26+25+6+22+24+26+22) \div 10 = 225 \div 10 = 22.5 \text{ kWh}$

発電量を小さい順に並べると 6, 22, 22, 24, 24, 25, 25, 25, 26, 26 より

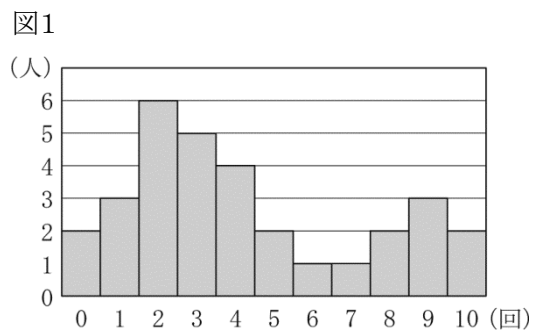
中央値は 5 番目と 6 番目の値の平均になるから $(24+25) \div 2 = 49 \div 2 = 24.5 \text{ kWh}$

【問 11】

右の図1は、ある中学校の生徒 31 人が、バスケットボールのフリースローを 10 回ずつ行ったとき、シュートが入った回数ごとの人数をグラフに表したものである。

シュートが入った回数の中央値を求めよ。

(東京都 2014 年度)



解答欄

回
---

解答

3 回

解説

中央値はフリースローの回数を小さい順に並べたとき 16 番目の生徒の値になるから 3 回

【問 12】

右の表は、ある学級の生徒 37 人の最近 1 か月間に読んだ本の冊数を調べ、度数分布表にまとめたものである。このとき、冊数の中央値と最頻値を、それぞれ答えなさい。また、冊数の平均値を、小数第 2 位を四捨五入して、小数第 1 位まで答えなさい。

(新潟県 2014 年度)

冊数(冊)	度数(人)
0	6
1	12
2	10
3	4
4	3
5	1
6	1
計	37

解答欄

中央値	(冊), 最頻値	(冊), 平均値	(冊)
-----	----------	----------	-----

解答

中央値 2 冊, 最頻値 1 冊, 平均値 1.8 冊

解説

中央値は冊数の大きい方(または小さい方)から 19 番目の生徒の読んだ冊数だから 2 冊。

最頻値は度数のもっとも大きい冊数だから 1 冊。

平均値は

$(0 \times 6 + 1 \times 12 + 2 \times 10 + 3 \times 4 + 4 \times 3 + 5 \times 1 + 6 \times 1) \div 37 = 67 \div 37 = 1.81 \dots$ より

小数第二位を四捨五入して 1.8 冊

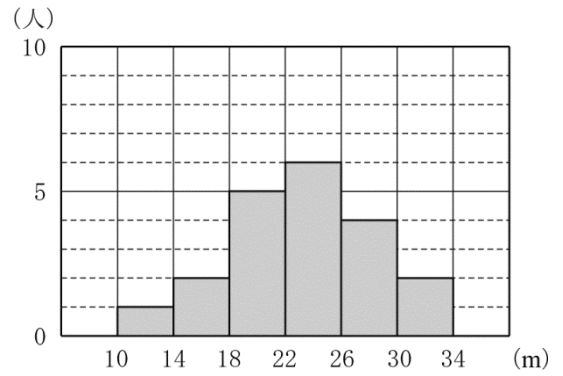
【問 13】

右の図は、あるクラスの男子全体のハンドボール投げの記録をヒストグラムに表したものである。

図において、例えば 10 から 14 の区間は、10 m 以上 14 m 未満の階級を表したものである。

26 m 以上 30 m 未満の階級の相対度数を求めなさい。

(富山県 2014 年度)



解答欄

解答

0.2

解説

26 m 以上 30 m 未満の階級の相対度数は  $4 \div 20 = 0.2$

【問 14】

花子さんのクラス 40 人全員について、夏休みに読んだ本の冊数を調べたところ、平均値 4.3 冊、中央値 (メジアン) 3 冊、最頻値 (モード) 5 冊であった。花子さんの読んだ本の冊数が 4 冊であったとき、読んだ本の冊数が多い人から数えると、花子さんは 20 番目以内か 21 番目以降のどちらであるか、そう判断した理由とあわせて書きなさい。

(石川県 2014 年度)

解答欄

解答

花子さんの読んだ本は 4 冊で中央値の 3 冊より多いので、読んだ本の冊数が多い人から数えると花子さんは 20 番目以内である。

解説

花子さんの読んだ本の冊数は中央値より大きいので多い方から考えると 20 番目以内にいる。

【問 15】

A 中学校では生徒の通学時間を調査した。右の度数分布表は、その調査の結果をまとめたものである。啓太さんは3年1組に在籍しており、通学時間は9分である。このとき、次の問いに答えよ。

通学時間 (3年1組, A中学校全体)

通学時間 (分)	3年1組	A中学校全体
	度数(人)	度数(人)
以上 未満 0 ~ 5	3	35
5 ~ 10	6	49
10 ~ 15	8	81
15 ~ 20	6	44
20 ~ 25	4	14
25 ~ 30	2	10
30 ~ 35	1	7
計	30	240

(福井県 2014 年度)

問1 啓太さんが入っている階級について、階級値と3年1組での相対度数を求めよ。

問2 この度数分布表をみて、啓太さんは「自分は3年1組で通学時間が短い方から30%以内に入っているので、A中学校全体でも30%以内に入る。」と考えた。しかし、後になって「A中学校全体では30%以内に入るかどうかはわからない。」と考え直した。啓太さんがそのように考え直した理由を言葉や数、式などを使って説明せよ。

[説明]

解答欄

問1	階級値                      分	
	相対度数	
問2	[説明]	

解答

問1

階級値 7.5 分

相対度数 0.2

問2

[説明]

A 中学校全体では、0~10 分の生徒の合計は 84 人で A 中学校全体の 35% を占める。啓太さんは 30% を超えて 35% 以内に入っているかもしれないので 30% 以内に入るかどうかはわからないから。

解説

問1

啓太さんの 9 分は 5 分以上 10 分未満の階級に入るのでその階級値は  $(5 + 10) \div 2 = 7.5$  分

また相対度数は  $6 \div 30 = 0.2$

問2

A 中学校全体の 10 分未満の人数は 84 人で 35% にあたる。

よって 9 分の啓太さんは短い方から 30% を超えて 35% 以内に入っている可能性もある。



【問 16】

下の資料は、ある中学校のバスケットボール部の最近 8 試合の得点である。  
得点の分布の範囲を求めなさい。

(山梨県 2014 年度)

50, 28, 62, 45, 38, 68, 70, 58 (点)

解答欄

点

解答

42 点

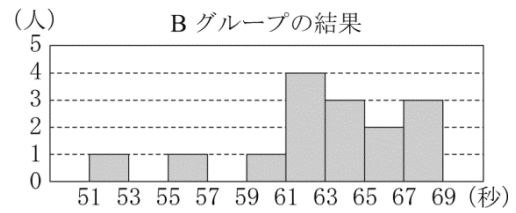
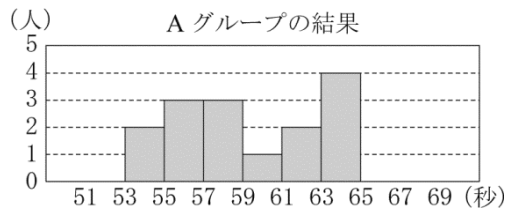
解説

範囲 = 最大の値 - 最小の値 =  $70 - 28 = 42$  点

【問 17】

15 人ずつの A, B, 2 つのグループがある。1 人ずつ目を閉じてストップウォッチをスタートさせ、60 秒になったと思ったところで止めて、そのときの時間を記録した。次のヒストグラムは 2 つのグループの記録をまとめたものである。

(長野県 2014 年度)



- (1) 2 つのグループの結果を比較するために、ヒストグラムから平均値を求め、それをを用いて調べようと考えた。このときの平均値の求め方を説明しなさい。ただし、階級値、度数のことばを用いること。実際に平均値を求めなくてよい。
- (2) 平均値以外のことについても調べようと考えた。A, B グループのヒストグラムからわかることについて、正しいものを次のア～エからすべて選び、記号を書きなさい。

- ア 57 秒以上 63 秒未満の人数は、A の方が B より多い。  
 イ 最頻値は、A の方が B より 60 秒に近い値である。  
 ウ 中央値は、A の方が B より 60 秒に近い値である。  
 エ B の分布の範囲は、A の分布の範囲より小さい。

解答欄

(1)	
(2)	

解答

(1) 例

各階級で階級値と度数の積を求めそれらの合計を資料の個数でわる。

(2) ア, ウ

解説

(1)

平均値は各階級で(階級値)×(度数)を求めその合計を資料の個数(度数の合計)でわると求められる。

(2)

ア 57 秒以上 63 秒未満の度数は A が 6 人、B が 5 人で、A が B より多いので正しい。

イ 最頻値は A が 64、B が 62 より、B の方が 60 秒に近いので正しくない。

ウ 中央値は A が 58、B が 64 より、A の方が 60 秒に近いので正しい。

エ 範囲は (最大値)−(最小値) より B の方が大きいので正しくない。

よって正しい選択肢はアとウ

【問 18】

光が 1 秒間に進む距離の測定値 300000 km を、有効数字を 2 けたとして、整数部分が 1 けたの小数と 10 の累乗との積の形で表しなさい。

(岐阜県 2014 年度)

解答欄

km
----

解答

$$3.0 \times 10^5 \text{ km}$$

解説

有効数字は 2 けたより 3 と 0

$$\text{よって } 300000 \text{ km} = 3.0 \times 10^5 \text{ km}$$

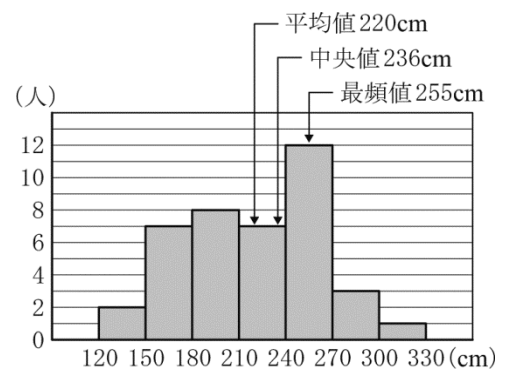
【問 19】

ある中学校の、S さんを含む 3 年生男子 40 人は、体力測定で立ち幅跳びを行った。図3は、その記録をヒストグラムに表し、さらに平均値、中央値、最頻値を書き加えたものである。また、S さんのこのときの記録は 224 cm であった。

これらのことをもとにして、S さんの記録が上位 20 番以内に入っているかどうかを、そのように判断した理由とあわせて、答えなさい。

(静岡県 2014 年度)

図3



解答欄

--

解答

S さんの記録は中央値より小さいので、上位 20 番以内に入っていない。

解説

S さんの記録 224 cm は中央値の 236 cm より小さいので 20 番以内に入っていない。

【問 20】

右の表は、あるクラスの生徒 40 人に対して、1 か月間に読んだ本の冊数を調査し、結果を度数分布表に表したものである。表の(ア) にあてはまる数と、このクラスの生徒がこの 1 か月間に読んだ本の冊数の平均値を求めなさい。

(愛知県 2014 年度 A)

冊数(冊)	度数(人)
0	2
1	5
2	(ア)
3	10
4	6
5	1
計	40

解答欄

ア (            ) , 平均値 (            ) 冊
---

解答

ア 16, 平均値 2.4 冊

解説

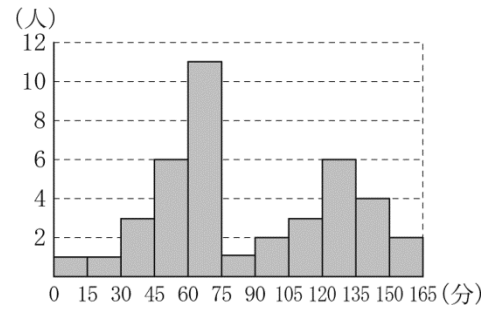
$$40 - (2 + 5 + 10 + 6 + 1) = 16 \text{ ア}$$

$$\text{平均値は } (0 \times 2 + 1 \times 5 + 2 \times 16 + 3 \times 10 + 4 \times 6 + 5 \times 1) \div 40 = 96 \div 40 = 2.4 \text{ 冊}$$

【問 21】

右の図は、あるクラスの生徒 40 人に対して、家庭での学習時間を調査し、結果をヒストグラムに表したものである。学習時間の平均値は、86.6 分であった。

このクラスの学習時間の平均値を 15 分以上増やすことができる方法を、次のアからエまでの中からすべて選んで、そのかな符号を書きなさい。



(愛知県 2014 年度 B)

- ア クラス全員が学習時間を 15 分増やす。
- イ 学習時間が中央値以下の人が 30 分ずつ増やし、他の人は現在の学習時間を保つ。
- ウ 学習時間が平均値以上の人が 30 分ずつ増やし、他の人は現在の学習時間を保つ。
- エ 学習時間が平均値以下の人が 15 分ずつ増やし、他の人は現在の学習時間を保つ。

解答欄

解答

ア, イ

解説

平均が 15 分増えるには

全体では  $15 \times 40 = 600$  分学習時間が増える必要がある。

ア

クラス全員が学習時間を 15 分増やすと全体でも  $15 \times 40$  分増えるので平均は 15 分増える。

イ

中央値以下の人は 20 人だから、30 分ずつ増やすと全体では全員が  $30 \times 20 = 600$  分増えるので平均も 15 分増える。

ウ

平均値以上の人は半分の 20 人より少ないので 30 分ずつ増やしても全体では 600 分増えない。よって平均は 15 分増えない。

エ

平均以下の人は半分の 20 人より多いが 40 人はいないので 15 分ずつでは全体で 600 分増えない。よって平均は 15 分増えない。

【問 22】

右の表は、ある中学校の3年生40人の通学時間を調べて度数分布表に整理したものである。

20分以上25分未満の階級の相対度数を求めなさい。

(三重県 2014年度)

階級(分)	度数(人)
以上 5 ~ 未満 10	6
10 ~ 15	10
15 ~ 20	9
20 ~ 25	8
25 ~ 30	5
30 ~ 35	2
計	40

解答欄

解答

0.2

解説

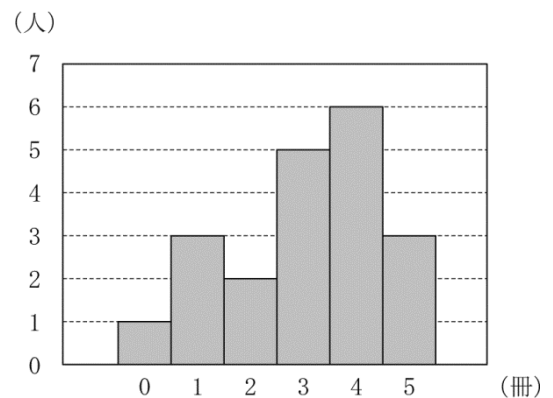
$$8 \div 40 = 0.2$$

【問 23】

ある中学校の図書委員20人の1か月間に読んだ本の冊数を調べた。右の図は、その結果を表したものである。図書委員20人が読んだ本の冊数について、右の図から読み取れることとして最も適当なものを、次の(ア)~(エ)から1つ選べ。

(京都府 2014年度 前期)

- (ア) 分布の範囲は、4冊である。
- (イ) 平均値は、3.2冊である。
- (ウ) 最頻値(モード)は、2冊である。
- (エ) 中央値(メジアン)は、3冊である。



解答欄

ア    イ    ウ    エ

解答

エ

解説

分布の範囲は  $5 - 0 = 5$  冊、平均値は  $(0 \times 1 + 1 \times 3 + 2 \times 2 + 3 \times 5 + 4 \times 6 + 5 \times 3) \div 20 = 61 \div 20 = 3.05$  冊

最頻値は4冊、中央値は3冊。

よって正しいのはエ

【問 24】

右の表は、あるサッカーチームに所属する選手 20 人の年齢について、度数及び相対度数をまとめたものである。～に当てはまる数をそれぞれ求めよ。

(京都府 2014 年度 中期)

年齢(歳)	度数(人)	相対度数
以上 未満		
18～21	<input type="text" value="ア"/>	0.35
21～24	5	0.25
24～27	2	0.10
27～30	<input type="text" value="イ"/>	<input type="text" value="ウ"/>
30～33	2	0.10
33～36	1	0.05
計	20	1.00

解答欄

ア	イ	ウ
---	---	---

解答

ア 7      イ 3      ウ 0.15

解説

ア  $20 \times 0.35 = 7$

イ  $20 - (7 + 5 + 2 + 2 + 1) = 3$

ウ  $3 \div 20 = 0.15$

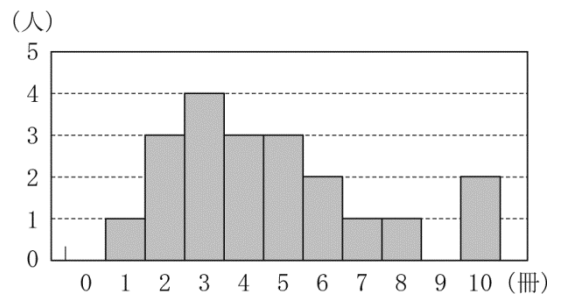
【問 25】

図2は、ある中学校の生徒 20 人が、1 か月間に読んだ本の冊数と人数の関係を表したものである。

中央値 (メジアン) と最頻値 (モード) を、それぞれ求めなさい。

(兵庫県 2014 年度)

図2



解答欄

中央値	冊
最頻値	冊

解答

中央値 4 冊

最頻値 3 冊

解説

冊数の少ない方から 10 番目と 11 番目の数はともに 4 冊だから中央値は 4 冊。

最頻値は最も多い冊数だから 3 冊

【問 26】

右の表は、ある市の 1 月と 2 月の毎日の最低気温を度数分布表に整理したものである。表をもとに、最低気温が  $0^{\circ}\text{C}$  未満の日数の割合は、1 月と 2 月とでどちらが大きいかを調べたい。そのことを調べるためには何と何を比べるのがよいか。次のア～オのうち、正しいものを 1 つ選び、その記号を書け。

(奈良県 2014 年度)

階級( $^{\circ}\text{C}$ )	度数(日)	
	1月	2月
以上 未満		
$-6 \sim -4$	0	1
$-4 \sim -2$	7	4
$-2 \sim 0$	14	12
$0 \sim 2$	9	5
$2 \sim 4$	0	4
$4 \sim 6$	1	1
$6 \sim 8$	0	1
計	31	28

ア 1 月の平均値と 2 月の平均値

イ 1 月の最頻値 (モード) と 2 月の最頻値 (モード)

ウ  $-2^{\circ}\text{C}$  以上  $0^{\circ}\text{C}$  未満の階級における、1 月の相対度数と 2 月の相対度数

エ  $0^{\circ}\text{C}$  未満の階級における、1 月の度数の合計と 2 月の度数の合計

オ  $0^{\circ}\text{C}$  未満の階級における、1 月の相対度数の合計と 2 月の相対度数の合計

解答欄

解答

オ

解説

1 月、2 月それぞれの  $0^{\circ}\text{C}$  未満の日数の割合は各月の  $0^{\circ}\text{C}$  未満の階級の相対度数の合計で表されるので  
選択肢はオ



【問 27】

次の資料は、ある中学校における1年生男子15人の50m走の記録である。

資料

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
記録(秒)	8.8	7.4	8.4	8.1	7.5	8.9	8.0	7.1	7.7	7.8	8.2	9.3	8.6	8.0	8.3

次の(1), (2)に答えなさい。

(和歌山県 2014年度)

(1) 右の表は、上の資料の記録を度数分布表に表したものである。表

表中の ア ~ ウ にあてはまる数を求めなさい。

階級 (秒)	度数 (人)
以上 未満 7.0 ~ 7.5	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span>
7.5 ~ 8.0	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span>
8.0 ~ 8.5	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ウ</span>
8.5 ~ 9.0	3
9.0 ~ 9.5	1
計	15

(2) 右の表の 8.5 秒以上 9.0 秒未満の階級の相対度数を求めなさい。

解答欄

(1)	ア	
	イ	
	ウ	
(2)		

解答

(1)

ア 2

イ 3

ウ 6

(2) 0.2

解説

(1)

資料から 7.0 秒以上 7.5 秒未満の男子の数を数えるとア=2

7.5 秒以上 8.0 秒未満の男子の数イ=3

8.0 秒以上 8.5 秒未満の男子の数ウ=6

(2)

8.5 秒以上 9.0 秒未満の階級の相対度数は  $\frac{3}{15} = 0.2$

【問 28】

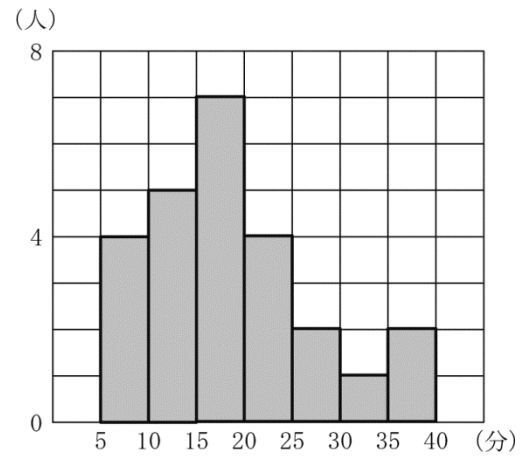
表は、ある中学校の 3 年 1 組の生徒 25 人の通学時間を調査してまとめたものである。また、図は、表をヒストグラムに表したものである。このとき、あとの各問いに答えなさい。ただし、通学時間とは、自宅から学校までの片道の時間とする。

(鳥取県 2014 年度)

表

通学時間(分)	階級値(分)	度数(人)	相対度数	階級値×度数
以上 未満				
5 ~ 10	7.5	4	0.16	30
10 ~ 15	12.5	5	0.20	62.5
15 ~ 20	17.5	ア	イ	122.5
20 ~ 25	22.5	4	0.16	90
25 ~ 30	27.5	2	0.08	55
30 ~ 35	32.5	1	0.04	32.5
35 ~ 40	37.5	2	0.08	75
合 計		25	1.00	467.5

図



問1 表のア、イにあてはまる数を答えなさい。

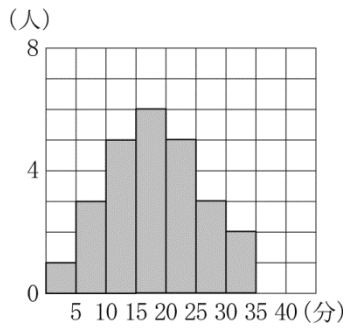
問2 表から、3 年 1 組の生徒の通学時間の平均値を求めなさい。

問3 3年2組の生徒25人についても同じ調査をして、ヒストグラムに表したところ、次の①～③がわかった。

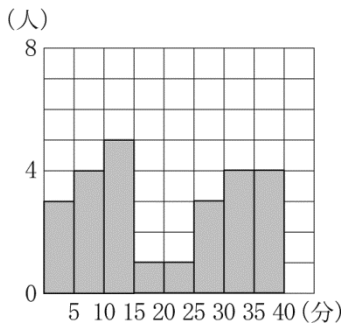
- ① 3年2組は、度数がもっとも多い階級が、3年1組とは異なっている。
- ② 3年2組は、階級値が37.5分である階級の度数が、3年1組より多い。
- ③ 3年2組は、中央値がはいっている階級が、3年1組と同じである。

このとき、3年2組のヒストグラムとして適切なものを、下のア～オからひとつ選び、記号で答えなさい。

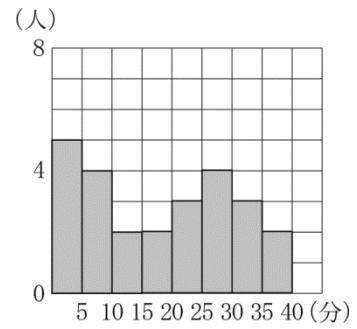
ア



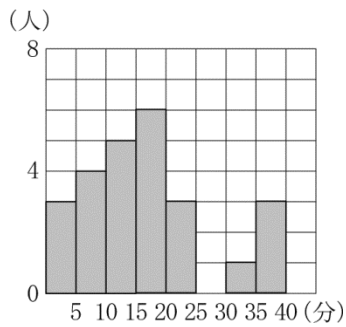
イ



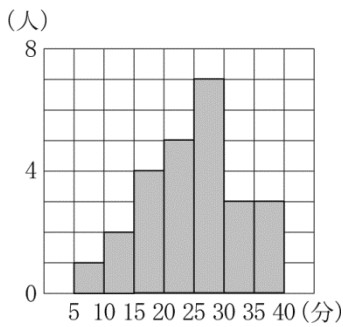
ウ



エ



オ



解答欄

問1	ア	
	イ	
問2	分	
問3		

解答

問1

ア 7

イ 0.28

問2 18.7分

問3 イ

解説

問1

全体の人数 25 人から通学時間 15～20 分以外の人数をひくと

$$25 - (4 + 5 + 4 + 2 + 1 + 2) = 7 \quad \text{ア}$$

$$7 \div 25 = 0.28 \quad \text{イ}$$

問2

$$\text{平均値は } 467.5 \div 25 = 18.7 \text{ 分}$$

問3

①よりイ, ウ, オに絞る。

②よりイとオに絞る。

③よりイに絞られる。

【問 29】

あるクラスの生徒 35 人について、学校図書館の利用状況を調べた。1 か月の本の貸出数について、平均値はちょうど 8 冊、一番少ない人は 2 冊、範囲は 20 冊であった。

この結果から必ずいえることを、次のア～エから 2 つ選び、記号で答えなさい。

(島根県 2014 年度)

- ア 全員の貸出数の合計は 280 冊である。
- イ 貸出数が多い生徒から順番に並べたとき、18 番目の生徒の貸出数は 8 冊である。
- ウ 貸出数が一番多かった生徒の貸出数は 22 冊である。
- エ 貸出数が 8 冊であった生徒の人数がクラスの中で一番多い。

解答欄

と

解答

アとウ

解説

アについて、貸出数の合計は、 $8 \times 35 = 280$ (冊)である。

イについて、中央値は 8 冊とは限らない。

ウについて、貸出数が最も多い生徒の貸出数は  $2 + 20 = 22$ (冊)である。

エについて、最頻値が 8 冊とは限らない。

よって、必ずいえるのは、アとウ

【問 30】

右の表は、10 人の図書委員 A～J に対して、一か月間に読んだ本の冊数を調べてまとめたものである。(1)、(2)を求めなさい。

(岡山県 2014 年度 一般)

(1) 平均値

(2) 中央値

図書委員	冊数(冊)
A	1
B	3
C	7
D	2
E	4
F	0
G	5
H	5
I	2
J	4

解答欄

(1)	冊
(2)	冊

解答

(1) 3.3 冊

(2) 3.5 冊

解説

(1)

平均値は $(1+3+7+2+4+0+5+5+2+4) \div 10 = 33 \div 10 = 3.3$  冊

(2)

読んだ本の数を少ない順に並べると 5 番目、6 番目になるのは 3 冊、4 冊だから

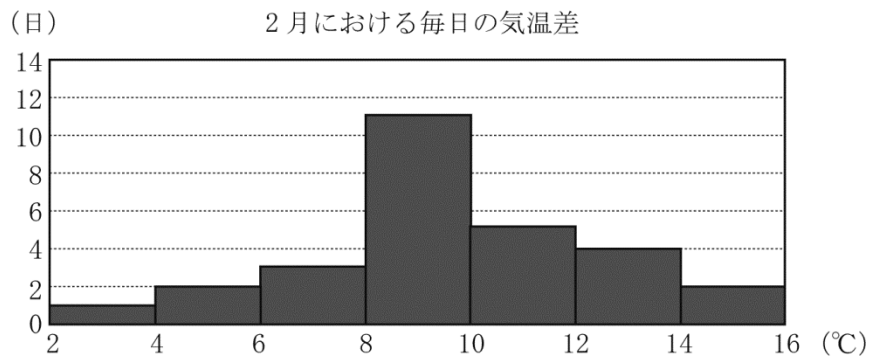
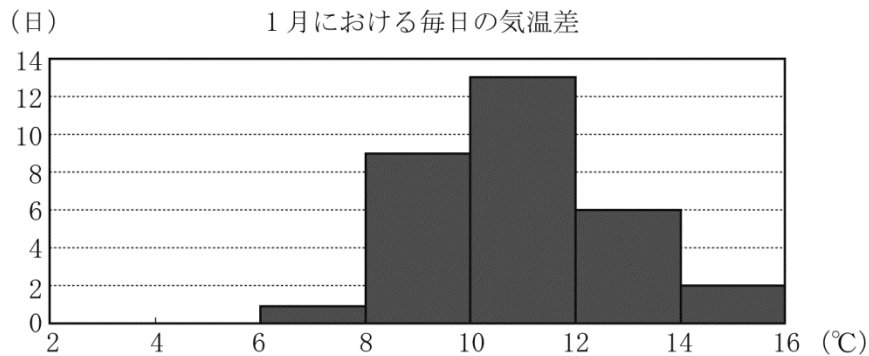
中央値は $(3+4) \div 2 = 3.5$  冊

【問 31】

太郎さんと花子さんが、自分たちの住んでいる町の1月と2月の気温について話をしています。

花子さん「2月は最高気温と最低気温の差が大きい日が多かったわね。」  
太郎さん「そうかな。僕は1月の方が多かったと思うけどな。」  
花子さん「毎日の気温差について、1月と2月で調べてみましょう。」

2人は、自分たちの住んでいる町の1月と2月における毎日の気温差について調べ、その結果をそれぞれ下のヒストグラムに表しました。例えば、「1月における毎日の気温差」のヒストグラムから、気温差が8℃以上10℃未満であった日数が9日あったことがわかります。



ヒストグラムに表すことによって、太郎さんは、「1月の方が2月よりも気温差が大きい日が多かった」という自分の推測が正しいと考えました。その根拠として適切なものを、下の①～④の中から1つ選び、その番号を書きなさい。

(広島県 2014年度)

- ① 気温差の分布の範囲を比べると、1月の方が2月よりも大きい。
- ② 気温差が8℃未満の日数を比べると、1月の方が2月よりも多い。
- ③ 気温差が10℃以上の日数の相対度数を比べると、1月の方が2月よりも大きい。
- ④ 中央値をふくむ階級の日数を比べると、1月の方が2月よりも少ない。

解答欄

解答

③

解説

気温差が  $10^{\circ}\text{C}$  以上の日数の相対度数は

1 月が  $(13+6+2) \div 31 = 0.677\cdots$  より  $0.68$

2 月は  $(5+4+2) \div 28 = 0.392\cdots$  より  $0.39$

だから 1 月の方が気温差が大きい日が多いといえる。

よって選択肢は③。



【問 32】

右の表は、A 中学校の 3 年生男子全体と B 中学校の 3 年生男子全体のハンドボール投げの記録の度数分布表である。ハンドボール投げの記録は、投げた距離のメートル未満を切り捨て、25m, 26m など整数の値とする。

階級 (m)	度数 (人)	
	A 中学校	B 中学校
以上 未満		
5 ~ 10	0	1
10 ~ 15	1	7
15 ~ 20	2	24
20 ~ 25	7	58
25 ~ 30	5	31
30 ~ 35	3	23
35 ~ 40	2	6
計	20	150

次の問1, 問2に答えなさい。

(山口県 2014 年度)

問1 記録が 23 m の生徒が投げた距離を  $a$  m とするとき、 $a$  の値の範囲を、次のア～エの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

ア  $22 \leq a < 23$

イ  $22 < a \leq 23$

ウ  $23 \leq a < 24$

エ  $23 < a \leq 24$

問2 それぞれの中学校の 3 年生男子全体における、記録が 35 m 以上 40 m 未満の生徒の割合は、どちらの中学校の方が大きいか。35 m 以上 40 m 未満の階級の相対度数を用いて説明しなさい。

解答欄

問1	
問2	[説明]

解答

問1ウ

問2

[説明]

35 m 以上 40 m 未満の階級の相対度数は、A 中学校が 0.10、B 中学校が 0.04 だから、A 中学校の方が大きい。

解説

問1

記録はメートル未満を切り捨てるので記録が 23 m の生徒が投げた距離は  $23 \leq a < 24$

よってウ

問2

記録が 35 m 以上 40 m 未満の階級の相対度数は

A 中学校が  $2 \div 20 = 0.10$

B 中学校が  $6 \div 150 = 0.04$

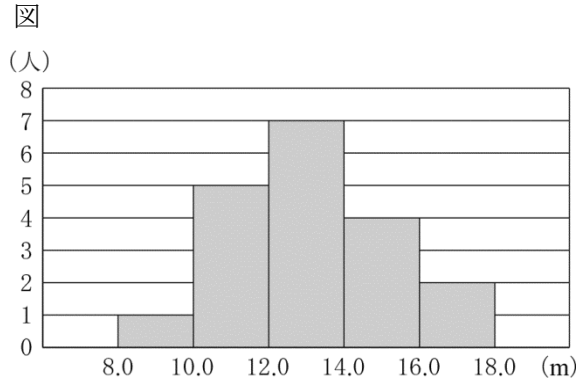
よって割合は A 中学校の方が大きい。

【問 33】

下の図は、ある中学校の女子のハンドボール投げの記録をヒストグラムに表したものである。

表は、図の各階級の相対度数をまとめたものである。このとき、表の  $x, y$  の値を、小数第 3 位を四捨五入して、小数第 2 位まで求めなさい。

(徳島県 2014 年度)



表

距離 (m)	相対度数
以上 未満 8.0 ~ 10.0	0.05
10.0 ~ 12.0	$x$
12.0 ~ 14.0	$y$
14.0 ~ 16.0	0.21
16.0 ~ 18.0	0.11
計	1.00

解答欄

$x =$
$y =$

解答

$$x = 0.26$$

$$y = 0.37$$

解説

$$5 \div 19 = 0.263\cdots \text{より}$$

$$x = 0.26$$

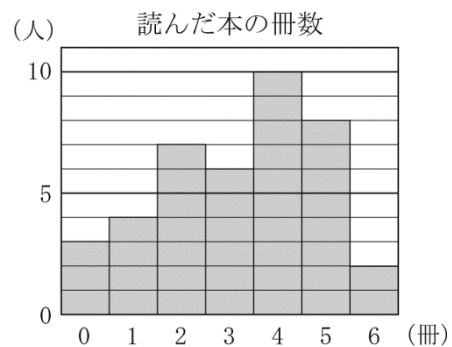
$$7 \div 19 = 0.368\cdots \text{より}$$

$$y = 0.37$$

【問 34】

右の図は、生徒数 40 名の学級で、最近 1 か月間に読んだ本の冊数の分布をヒストグラムに表したものである。このヒストグラムから、生徒 40 名が最近 1 か月間に読んだ本の冊数の中央値を求めよ。

(香川県 2014 年度)



解答欄

冊
---

解答

3.5 冊

解説

読んだ本の冊数の多い順(または少ない順)に並べたとき

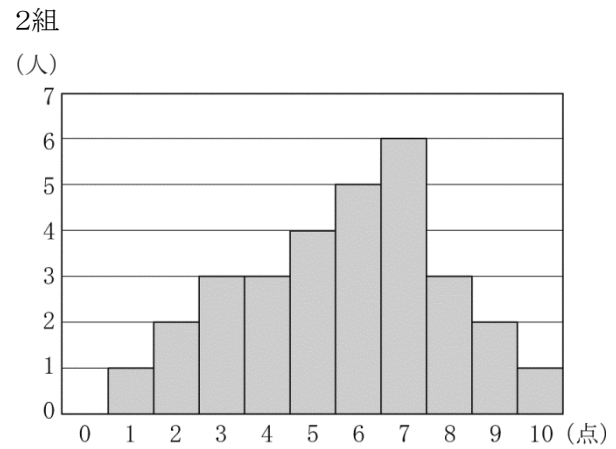
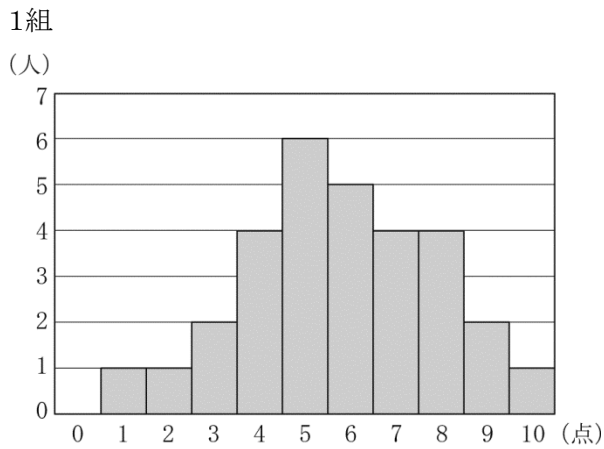
20 番目, 21 番目の生徒の冊数は 3 冊と 4 冊なので

中央値は 3.5 冊

【問 35】

3年生の1組と2組で10点満点の小テストを実施した。下の図は、1組と2組のそれぞれの、得点と人数の関係を表したものである。

(愛媛県 2014年度)



(1) 1組の中央値を求めよ。

(2) 1組と2組を合わせた生徒全体のうち、得点が8点以上であった生徒は、1組と2組を合わせた生徒全体の何%か。小数第2位を四捨五入して、小数第1位まで求めよ。

解答欄

(1)	点
(2)	%

解答

(1) 6点

(2) 21.7%

解説

(1)

1組の人数は  $1+1+2+4+6+5+4+4+2+1=30$  人 より

中央値は点数の高い方(または低い方)から15番目と16番目の生徒が入っている階級の6点

(2)

2組の人数は  $1+2+3+3+4+5+6+3+2+1=30$  人

1組の8点以上の生徒は  $4+2+1=7$  人で2組の8点以上の生徒は  $3+2+1=6$  人より

1, 2組の8点以上の生徒は  $6+7=13$  人

よってその割合は  $\frac{13}{60} \times 100 = 21.6666\cdots\%$  より

小数第2位を四捨五入して 21.7%

【問 36】

右の表は、A 中学校と B 中学校の 1 年生男子のハンドボール投げの記録を、度数分布表に整理したものである。

A 中学校と B 中学校の「20 m 以上 25 m 未満」の階級の相対度数のうち、大きい方の相対度数を、四捨五入して小数第 2 位まで求めると、 である。

(福岡県 2014 年度)

ハンドボール投げ

階級 (m)	度数 (人)	
	A 中学校	B 中学校
以上 未満 5 ~ 10	2	7
10 ~ 15	9	32
15 ~ 20	21	68
20 ~ 25	18	51
25 ~ 30	6	10
計	56	168

解答欄

解答

0.32

解説

20 m 以上 25 m 未満の相対度数は

A 中学校が  $18 \div 56 = 0.321\cdots$  より 0.32

B 中学校が  $51 \div 168 = 0.303\cdots$  より 0.30

したがって大きい方は A 中学校の 0.32

【問 37】

下の表は、生徒 40 人の通学時間を度数分布表に表したものである。  
このとき、(1)～(3)の各問いに答えなさい。

(佐賀県 2014 年度 特色)

表

通学時間(分)	度数(人)	相対度数
以上 0 ～ 10 未満	<input type="text" value="a"/>	0.10
10 ～ 20	<input type="text"/>	0.45
20 ～ 30	10	<input type="text" value="b"/>
30 ～ 40	<input type="text"/>	<input type="text" value="c"/>
40 ～ 50	<input type="text"/>	0.05
計	40	1.00

- (1) 表の中のa～cにあてはまる数を求めなさい。
- (2) 生徒 40 人の通学時間の中央値は、どの階級にはいつているか、求めなさい。
- (3) 表を利用して、生徒 40 人の通学時間の平均値を求めなさい。

解答欄

(1)	a	
	b	
	c	
(2)	分以上 分未満の階級	
(3)	分	

解答

(1)

a 4

b 0.25

c 0.15

(2) 10分以上 20分未満の階級

(3) 21分

解説

(1)

$$a = 40 \times 0.10 = 4$$

$$b = 10 \div 40 = 0.25$$

$$c = 1 - (0.10 + 0.45 + 0.25 + 0.05) = 0.15$$

(2)

相対度数は0分以上 10分未満の生徒は0.10

20分未満の生徒は  $0.10 + 0.45 = 0.55$  より

中央値は10分以上 20分未満の階級にはいつている。

(3)

平均値は

階級値×度数 の合計を度数の合計で割ったものだから

階級値×相対度数 の合計で求められる。

$$5 \times 0.10 + 15 \times 0.45 + 25 \times 0.25 + 35 \times 0.15 + 45 \times 0.05 = 21 \text{ 分}$$

【問 38】

右の表は、A チームと B チームの野球選手各 9 人が、1 年間に打ったホームランの本数を示したものである。このとき、次の(1)、(2)に答えよ。

(長崎県 2014 年度)

表

ホームランの本数 (本)	
A チーム	B チーム
20	11
5	$x$
34	17
47	36
32	28
16	$y$
19	23
10	1
3	6

(1) A チームのホームランの本数の中央値 (メジアン) を求めよ。

(2) B チームのホームランの本数の平均値は 20 本で、 $y$  が  $x$  より 6 大きいとき、 $x$ 、 $y$  の値をそれぞれ求めよ。

ただし、答えだけでなく、答えを求める過程がわかるように、途中の式なども書くこと。なお、平均値は正確な値であり、四捨五入などはされていないものとする。

解答欄

(1)	本
(2)	<p>答 <math>x =</math>                      , <math>y =</math></p>



解答

(1) 19本

(2)

Bチームのホームランの本数の平均値は20本なので

$$\frac{11+x+17+36+28+y+23+1+6}{9} = 20 \cdots \textcircled{1}$$

$y$ が $x$ より6大きいので

$$y = x + 6 \cdots \textcircled{2}$$

①, ②を連立方程式として解くと

$$x = 26$$

$$y = 32$$

答  $x = 26, y = 32$

解説

(1)

9人の本数を小さい順に並べると3, 5, 10, 16, 19, 20, 32, 34, 47。

よって中央値は5番目の19本

(2)

$y$ が $x$ より6大きいので

$$y = x + 6 \cdots \textcircled{1}$$

合計本数の関係より

$$11 + x + 17 + 36 + 28 + y + 23 + 1 + 6 = 20 \times 9$$

整理して

$$x + y = 58 \cdots \textcircled{2}$$

①, ②を連立方程式として解くと

$$x = 26, y = 32$$

【問 39】

あるクラスの男子 20 人と女子 15 人について、4 月の 1 か月間に学校の図書館から借りた本の冊数を調べた。図 1 は男子について、図 2 は女子について、その結果をそれぞれヒストグラムに表したものである。また、表 1 は、男子と女子のそれぞれについて、借りた本の冊数の平均値を示したものである。

このとき、次のア～オから正しいものを二つ選び、記号で答えなさい。

(熊本県 2014 年度)

図1

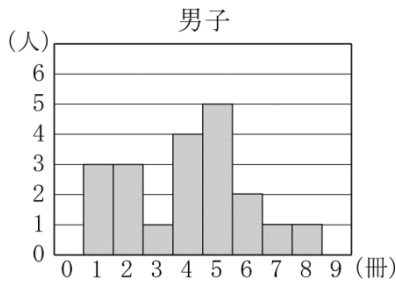


図2

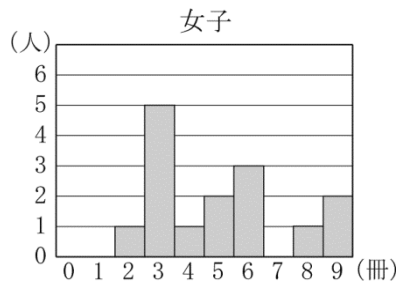


表1

	男子 (冊)	女子 (冊)
平均値	4	5

- ア 男子の借りた本の冊数の最頻値と女子の借りた本の冊数の最頻値は等しい。
- イ 男子の借りた本の冊数の範囲と女子の借りた本の冊数の範囲は等しい。
- ウ 男子の借りた本の冊数の中央値と女子の借りた本の冊数の中央値は等しい。
- エ 男子における借りた本の冊数が 3 冊以下の生徒の割合は、女子における借りた本の冊数が 3 冊以下の生徒の割合より小さい。
- オ 男子と女子をあわせた 35 人における借りた本の冊数の平均値は 4.5 冊である。

解答欄

--	--

解答

イ, エ

解説

ア

最頻値は男子が 5 冊で女子は 3 冊なので異なる。

イ

範囲は男子が  $8 - 1 = 7$  冊、女子が  $9 - 2 = 7$  冊より等しい。

ウ

中央値は男子が 4 冊、女子が 5 冊で異なる。

エ

男女それぞれにおける 3 冊以下の生徒の割合は

男子が  $7 \div 20 = 0.35$ 、女子が  $6 \div 15 = 0.4$  で男子の方が女子より小さい。

オ

35 人の平均は  $(4 \times 20 + 5 \times 15) \div 35 = 155 \div 35 = 4.428 \dots$  冊

よって正しいのはイとエ

【問 40】

右の表は、マンゴー30 個について、それぞれの重さをはかり、その結果を度数分布表に整理したものです。

階級 380g 以上 390g 未満の相対度数を、四捨五入して小数第 2 位まで求めなさい。

(宮崎県 2014 年度)

階級 (g)	度数 (個)
350 <sup>以上</sup> ~ 360 <sup>未満</sup>	1
360 ~ 370	3
370 ~ 380	8
380 ~ 390	7
390 ~ 400	9
400 ~ 410	2
計	30

解答欄

解答

0.23

解説

階級 380g 以上 390g 未満の相対度数は  $7 \div 30 = 0.233\cdots$

四捨五入して小数第 2 位まで求めると 0.23

【問 41】

中学生を対象に、平日（月～金曜日）1日あたりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間について、アンケート調査を行った。次の問1、問2に答えなさい。

（鹿児島県 2014年度）

問1 下の表1は、A市のすべての中学2年生5100人の中から200人を無作為に抽出し、アンケート調査を行った結果を度数分布表に表したものである。このとき、次の(1)～(3)の問いに答えよ。

(1) 表1から、60分以上120分未満の階級の相対度数を求めよ。

表1

階級(分)	度数(人)
以上 未満 0～60	a
60～120	52
120～180	54
180～240	34
240～300	b
計	200

(2) 視聴時間が120分以上180分未満である中学2年生は、A市全体ではおよそ何人いるか、表1を用いて推定せよ。ただし、十の位を四捨五入した概数で答えよ。

(3) 表1から得られた平均値が135分であるとき、、に適切な数値を入れて度数分布表を完成させよ。

問2 右の表2は、ひろしさんとよしこさんが通うB市のC中学校2年生の1組40人と2組40人に対して、アンケート調査を行った結果から得られた視聴時間の平均値を表したものである。また、図1、図2は、その調査結果をヒストグラムに表したものである。

表2

	平均値(分)
1組	126
2組	141

表2、図1、図2を見たひろしさんとよしこさんが次のような会話をした。

ひろしさん: 平均値から2組の生徒の方が視聴時間が長いと思う。

よしこさん: そうとは言えないと思うよ。なぜなら、

だから、1組の生徒の方が視聴時間が長いという考え方もできるよ。

ひろしさん: なるほど、そういう考え方もできるね。

図1

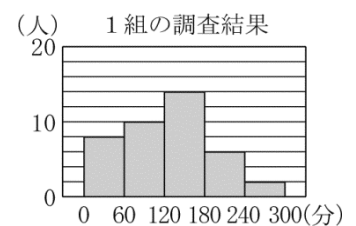
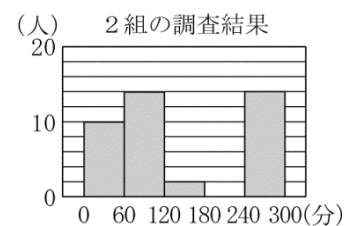


図2



会話の中の  に、よしこさんの発言の続きを書き、会話を完成させよ。ただし、根拠となる平均値以外の代表値について、階級を示すこと。

解答欄

問1	(1)		
	(2)	およそ 人	
	(3)	a	b
問2			

解答

問1

(1) 0.26

(2) およそ 1400 人

(3)

a 38

b 22

問2

中央値が含まれる階級は

1組が 120 分以上 180 分未満

2組が 60 分以上 120 分未満

であるから 1組の方が中央値が大きい。

解説

問1

(1)

60 分以上 120 分未満の階級の相対度数は  $52 \div 200 = 0.26$

(2)

表の 120 分以上 180 分未満の階級の相対度数は  $54 \div 200 = 0.27$

よって A 市全体では  $5100 \times 0.27 = 1377$  より

10 の位を四捨五入しておよそ 1400 人

(3)

度数の合計から

$$a + 52 + 54 + 34 + b = 200$$

$$a + b = 60 \cdots \textcircled{1}$$

平均値が 135 分より

$$30a + 90 \times 52 + 150 \times 54 + 210 \times 34 + 270b = 135 \times 200$$

$$30a + 270b = 7080 \cdots \textcircled{2}$$

①, ②を連立方程式として解くと

$$a = 38$$

$$b = 22$$

問2

中央値を比較する。

中央値が含まれる階級は

1組が 120 分以上 180 分未満

2組が 60 分以上 120 分未満より

1組の方が中央値が大きい。

【問 42】

右の度数分布表は、ある中学校の2年1組40人と2年生320人全員のハンドボール投げの記録をまとめたものである。次のア～ウで、正しくないものは  である。

(沖縄県 2014 年度)

ア 階級の幅は5 m である。

イ 2年1組の最頻値 (モード) は22.5 m である。

ウ 20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数は2年1組より2年生全員のほうが大きい。

階級 (m)	度数 (人)	
	2年1組	2年生全員
以上 未満		
5 ~ 10	2	20
10 ~ 15	4	40
15 ~ 20	8	70
20 ~ 25	12	80
25 ~ 30	10	75
30 ~ 35	4	35
計	40	320

解答欄

解答

ウ

解説

20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数は

2年1組が  $12 \div 40 = 0.3$

2年生全体では  $80 \div 320 = 0.25$

よって2年1組の方が大きいので正しくないのはウ